



スライド 1



「お金の使い方」

<ねらい>

前半の「必要なもの・ほしいもの」では、お小遣いをベースに、生活にはお金がかかること、やりくりの大切さを学びます。

後半の「お給料の使い道を考えよう」では、お給料をベースに、具体的な金額も入れ、一歩進んだ内容になっています。

<所要時間の目安>

講義形式: 45 分程度

講師シナリオ

指導のポイント／解説

スライド 2



生活の中で、生きていくために、買う物は何でしょうか？
絵の中にいくつかありますね。

他には何がありますか？

(参加者の意見を聞く)

生きていくにはお金がかかりますね。

生きていくためには、食品や衣服など商品以外にも、光熱費や住居費など様々なお金が、必要であることを学びます。

☞朝起きてから夜寝るまでの生活のシーンを振り返ります。

そして、普段、当たり前に使っている、電気や水道、トイレトペーパーなどにも、お金がかかることを理解します。

スライド 3



では、入ってくるお金はなんですか？これを見てください。給料と年金などが、入ってくるお金ですね。

では、出ていくお金には何がありますか？毎月のケータイ代や服、家賃や食事、散髪やおやつ、他には何がありますか？

収支のバランスについて学びます。

入ってくるお金（収入）は、給料や障害基礎年金等。

出ていくお金（支出）は、食費、被服費、住居費のほか、交通費や携帯料金等の通信費、光熱水道費、散髪代、雑誌、おやつ、交際費等。

☞他に、どんな支出があるか、受講者に考えてもらいます。



スライド 4



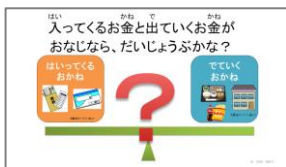
もし、出ていくお金が多かったら、どうなりますか？

入ってくるお金（収入）と出ていくお金（支出）のバランスを視覚的に捉えて、どれが良いのか考えます。

☞収入 < 支出

欲しい物を何でも買っていると生活できなくなると、気づいてもらいます。

スライド 5



もし、入ってくるお金と出ていくお金が同じなら、どうなりますか？

生活はできますね。

でも、困ることはありませんか？

☞収入 = 支出

ずっと収入と支出が同じなら、生活はできるがお金は残らないので、予期せぬ出費（病気や怪我、家電製品の故障等）が必要なとき、どうすればよいか考えます。

スライド 6



入ってくるお金の方が出ていくお金より多かったらどうですか？太郎さんは笑っていますね。何を見て、太郎さんは笑っているのでしょうか？

そうです。貯金が出来ますね。

貯金は困ったときに使えたり、旅行に行くときにも使えます。貯金があると、太郎さんのように余裕の笑顔でいられます。

☞収入 > 支出

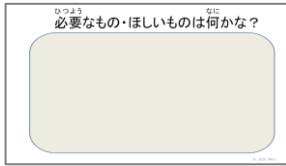
お金が残ったら、何をするのか考えます。

受講者に太郎さんが貯金通帳を見て笑っていると気づいてもらいます。

☞貯金の必要性について伝えます。



スライド7



では、今度はお金を使うことを考えてみましょう。
ここには何も絵が無いですね。皆さんが生きるために「必要な物」は何ですか？
生きるために必要な物はたくさんありますね。

今度、欲しい物を考えていきましょう。
欲しい物は、無いと生活できないわけではないけれど、持っている心がウキウキしたり、あると嬉しい物が「欲しい物」です。値段の高い物はお金を貯めて買わないと買えません。皆さんの「欲しい物」は何ですか？

必要な物と、欲しい物の違いについて考えます。

スライド7では、まず絵を見せずに、受講者に「必要な物」「欲しい物」を問いかけ、それぞれ、思いつく物を答えてもらいます。

☞ 受講者の回答に、ゲーム機やブランドもののスニーカーなど、高価な物が出てくれば、買うためには目標を決めて、お金を貯めるとよい、と伝えます。

スライド8



ここでは、例を書いています。CDやゲーム、スマホなどがありますね。
どれが、必要な物で、どれが、欲しい物でしょうか？

スライド8では、絵を見ながら、どれが必要なもの、どれが欲しい物か、受講者から意見を聞きます。

スライド9

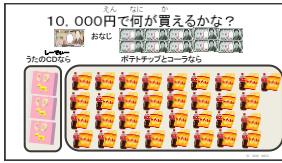


必要な物と欲しい物で分けたものを見てみましょう。
皆さんの意見と同じでしょうか？ 比べてみましょう。

使えるお金には限りがあるため、必要な物を優先し、時には、欲しい物をあきらめることも、生活していく上では必要であると学びます。



スライド 10



では、1万円で買える欲しい物って何でしょうか？
1万円は千円札だと10枚ですね。

CDだと3枚。

ポテトチップスとコーラだと33個です。

毎日好きなおやつやジュースを買っていますか？

皆はポテトチップスとコーラ33個買いますか？

1日300円でも毎日買うと1万円近くになります。

1万円は大金ですけど、使ってしまうと無くなってしまいます。

上手に使わないといけませんね。

音楽CDや、ポテトチップスとコーラといった、受講者にとって身近な物を通して、お金の価値を学びます。

参加者の多くは、ジュースやお菓子を毎日買う習慣があるように見受けられます。

音楽CDは1枚3,300円、ポテトチップスとコーラを合わせて300円として計算しています。

スライド11



1万円は上手に使わないと、すぐなくなります。

お給料を上手に使うにはどうするか？

考えていきましょう。

まず、お給料や年金をもらった時、さっき皆さんで考えた「必ずいるお金」と、「楽しみのお金」、「貯金」の3つに分けることで、お金を上手に使うことができます。

お金を計画的に使い、毎月貯金をするため、「やりくり」の方法を学びます。

☞お給料をもらったらすぐ、お金を振り分けることが「やりくり」のコツと伝えます。

ここでは生活費（必ずいるお金）とお小遣い（楽しみのお金）、貯金の3つにお金を振り分けています。



スライド12



では、花子さんと太郎さんの場合を考えていきましょう。

花子さんと太郎さんは、20歳です。(※1) グループホームから就労継続支援A型事業所に通い、障害基礎年金を受給しています。

(※1) 障害基礎年金の受給開始年齢は20歳です。

スライド 13



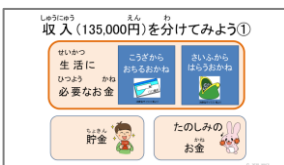
花子さんの収入はお給料と年金で13万5千円もらっています。

ここに1万円札13枚と千円札5枚あります。たくさんのお金ですね。

現在は家族等に家計を管理してもらっている受講者も、将来、自分で家計管理ができるように、お金の使い方を学びます。

本教材では、就労継続支援A型事業所で受け取る賃金と、障害基礎年金との合計額を収入として、月額 135,000 円で設定しています。(※2)

スライド 14



収入の13万5千円を3つに分けてみましょう。

「生活するために必要なお金」、「貯金」、「楽しみのお金」の3つに分けます。

「生活するために必要なお金」には「銀行口座から自動的に引き落とされるお金」と「自分で払うお金」があります。

お給料と年金を合わせた収入135,000円のやりくりを考えます。

☞収入が入ったら、使う前に、目的別に振り分けします。

☞この後、生活に必要なお金の説明に入ります。生活費には、口座から引き落とされる分と、現金で支払う分があると説明します。

(※2)厚生労働省「平成28年度工賃(賃金)の実績について」の調査結果によると、平成28年度平均工賃(賃金)の月額B型事業所では15,295円、A型事業所では70,720円。また、障害基礎年金は、平成31年度1級81,000円、2級65,000円。以上を基に、A型事業所利用者の平均賃金70,000円+年金65,000円=135,000円と試算しています。



スライド 15



銀行口座から引き落とされるお金には何があるか、みていきましょう。

グループホームに払うお金が7万円、事業所などに払うお昼ご飯のお金が8千円、ケータイ代が7千円で、合計 8万5千円が銀行口座から引き落とされます。

皆さんのケータイ代はいくらですか？7千円より高いですか？

もし、銀行口座の残高が足りないと、毎月のケータイ代が引き落とされず、携帯電話が強制的に解約されてしまいます。

生活費の内、銀行口座から引き落とされる費用について、考えていきます。

本教材では、朝夕の食費、光熱水道費、雑費等も含みグループホームにかかる費用を月額 70,000 円としています。

☞銀行口座の残高不足のため携帯電話の料金が引き落とされないと、強制解約になり、携帯電話が使用できなくなることを伝えます。

スライド 16



では、銀行口座から引き落とされない分で、「生活するために必要なお金」にはどんな物があるでしょうか？

休みの日のお昼代や下着のお金、病院のお金、散髪代などがありますね。

もし、このお金を使ってしまっていたら、どうなるでしょうか？散髪に行かずに髪の毛が伸び放題だったらどうなりますか？パンツが無くなったらどうなりますか？

このお金は最初に置いておかないといけません。そのためのお金が、だいたい2万5千円くらいです。

生活費の内、現金で支払う費用について考えていきます。

☞受講者に他にどんな物があるか答えてもらってもいいでしょう。

☞お金を先に全部使ってしまうと、必要な物を買えなくなってしまい、困ってしまうと想像してもらいます。



スライド 17



「生活するために必要なお金」は11万円です。
 収入13万5千円から、必要なお金11万円を差し引いた
 残りは2万5千円です。

この2万5千円は皆さんならどうしますか？
 ここには「貯金」と「楽しみ」と書いてあります。

口座から落ちるお金＋財布から払うお金
 ＝生活に必要なお金

$$(85,000円 + 25,000円 = 110,000円)$$

収入－必要なお金＝残りのお金

$$(135,000円 - 110,000円 = 25,000円)$$

- ☞ 受講者に25,000円を全部自由に使ってしまつて大丈夫かと問いかけ、貯金の必要性へ展開します。

スライド 18



もし、全部お金を使ってしまっていたら、急にテレビが
 壊れたとき、どうしますか？
 新しいテレビを買うお金がないですね。

テレビや冷蔵庫などの電気製品や、家具が壊れたとき、
 病気になったとき、また冬物のコートを買うときや、旅行
 に行くときなど、お金がないと困ってしまいます。

そんなときに備えて、毎月少しずつ貯金をしておきましょ
 う。

お金が余ったら貯金しようと思っていると、全部使つてしま
 って貯金できなくなります。

毎月お金が入ったら、決まった額を先に貯金しましょう。

貯金の必要性を学びます。

- ☞ 家電製品や家具の故障、急病、冬物のコート、旅行、など高額な出費に備えるために、貯金が必要であると伝えます。

- ☞ 生活環境により、貯金に回せる額は変わりますが、本教材では10,000円を貯金する想定です。

- ☞ 余ったお金を貯金するのではなく、毎月、決まった額を貯金することが大切と強調します。



スライド 19



収入13万5千円から「生活するために必要なお金」の11万円と貯金の1万円を引くと残りは1万5千円です。

この1万5千円は皆さんが自由に使える「楽しみのお金」です。

収入—生活に必要なお金—貯金

=楽しみのお金

135,000円—110,000円—10,000円

=15,000円

☞楽しみのお金は、自分が好きなことに使えることを伝えます。

スライド 20



人それぞれに、いろんな楽しみがあります。

皆さんなら、「楽しみ」のお金を何に使いたいですか？

もし、ポテトチップスとコーラを毎日買っていたら、それだけで1万円になってしまいますよね。

1度に全部使ってしまうと、月の最後は何もできなくなります。

やりくりを頑張るためにも、好きなことに使える楽しみのお金は大切です。

☞受講者に、楽しみのお金を、何に使うか尋ねます。

☞楽しみのお金を一度に全部使ってしまうないように、計画的に使うには、どうすればよいか考えます。



スライド 21



そこで、魔法の方法です。5つの封筒にお金を分けて入れます。

5つの封筒に3千円ずつ入れておきます。
そして、ひと月4週あるので、1週間ずつ使います。

予備費と書いてある、最後の封筒は足りなくなった時のお助け袋です。

こうすれば、月の最後の週も、お金が無くならず使うことができます。

お助け袋を使わずに済んだ月は、3千円がご褒美となります。ご褒美があると嬉しいですね。

楽しみのお金を一度に使ってしまわないように、5つの封筒に分けて管理することを学びます。

- ☞ 1週間目から4週間目の封筒の他、予備費の封筒も作り、封筒に3,000円ずつ入れます。
- ☞ 予備費のお金は5週目があるときや、どうしても足りない時に使います。
- ☞ 楽しみのお金が残れば、やりくりを頑張った自分へのご褒美に出来ると説明します。

スライド 22



毎月決まったお金を、計画して使うことが大事です。

いざという時のために、どうすれば、良かったですか？
そうですね。貯金をすることが、大事ですね。

最後に、もう一度、お金を分けて管理すること、毎月貯金をすることを、復習します。